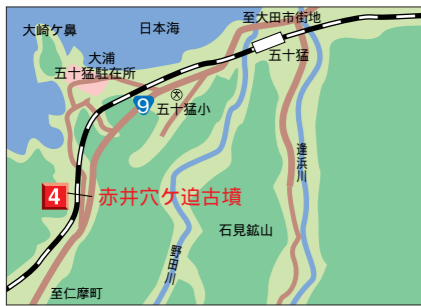




旧波根湖の南にある丘陵頂上付近の東斜面に位置し、八基の横穴墓が開口しています。いずれも岩盤を掘り込んで造られており、玄室の天井は丸く、入口は精巧にできています。六世紀後半から七世紀ごろのものと思われる。石見の横穴墓は有名なものが少ないですが、この横穴墓は保存がよくおすすめです。

マニアも知らない？
3 大西大師山横穴墓群
大田市波根町



石見で唯一の切石石室。複雑に丘陵が入り組んだ谷奥の南斜面に位置します。墳丘は畑や道によって削られており、石見部では唯一の切石造りの横穴式石室が開口しています。羨道部の左壁と玄室のみが残っており、墳丘の形や出土遺物はわかりませんが、石室の特徴や立地などから、終末期の古墳と推定されます。

4 赤井穴ヶ迫古墳
大田市五十猛町



「中国太郎」とも呼ばれる江の川は、中国山地を貫流して日本海に注ぐ中国地方一の大河です。この川とその支流は山陰山陽を結ぶ交通路としてこの地域に多くの文化をもたらしました。全国で初めて発見された弥生時代の四隅突出型墳丘墓である瑞穂町の順庵原一号墓は、広島県山間部の同種のものとしてよく似ています。また、古墳時代前期に造られた石見町の中山古墳群では「方形板葺短甲」と呼ばれる鏡、後期に造られた羽須美村の野伏原古墳では「三累環頭大刀」と呼ばれるみとな刀が発見されています。これらの優れた品々が、江の川流域の交通路を通して入手されたものであろうことは確かでしょう。

エリア8 石見山間東部



大和村の石舞台。田んぼの中に、小さな祠が乗った大きな石がボツンと取り残されており、まさに奈良県の石舞台古墳を思わせる姿です。この古墳は調査されておらず、内部を見ることはできませんが、露出している天井石の大きさから見て、邑智郡内でも屈指の規模を持つ横穴式石室であることが予想されます。

1 土居原古墳
邑智郡大和村都賀西



飾り大刀が出土した野伏原古墳。村指定。江の川の支流である出羽川のほとりに築かれた古墳で、立つて歩けるほど大きい横穴式石室を持っています。石室の入口部分は埋まっていますが、須恵器のほか、「三累環頭大刀」と呼ばれる飾りのついた大刀が副葬されていたことがわかっています。これは県内では出土例がなく、山陰両県でも三本しか確認されていない貴重なものです。

2 野伏原古墳 村指定
邑智郡羽須美村雷田



細長い横穴式石室。中国山地一帯に多い細長い横穴式石室を持っていきます。石室は入口から奥壁までほぼ一直線につながっており、玄室と羨道の区別がない無袖式の形態をとっています。同種の石室が分布する、石見や山陽側との関係が考えられる古墳です。

5 比丘尼塚古墳 町指定
飯石郡朝原町八神



大田市から西は海岸部に小さな平野が連続し、古墳も各所で見られます。古い古墳もあるようですが、発掘調査されたものは意外と少なく、目立つのは横穴式石室と横穴墓など、六世紀後半以降のもの。仁摩町の明神古墳は、現在埋め戻されているため見ることはできませんが、全長一〇メートルの巨大な横穴式石室を持ち、内部には北陸地方のものに似た石棺があり、注目されます。この地域の横穴墓は大井が丸かたり、平坦であったりするものが多く、家形もわずかに見られ、全体として隠岐の横穴墓によく似ていますが、直接関係があるかどうか今のところ不明です。このほか、江津市の千田町には、横穴式石室を持つツツラヤン古墳をはじめ四〇基以上の古墳が集中しており、注目されます。

エリア7 石見海岸東部



1 サンドミュージアム内古墳公園
通都仁摩町天河内



砂時計が刻む古代の時間。世界最大の砂時計「有名なこの公園を造るときに調査された古墳を、古墳公園として整備、公開しています。この調査後そのまま残された古墳と、あとで復元された古墳があります。公園の山裾にある二つの横穴墓は本物で、入口をふさぐ石が残されています。山の上にはもともと公園西側の尾根上にあつた、安養寺古墳群の石棺などが模型として復元されています。それぞれの古墳に説明板も設置されており、休憩所としてもおすすめです。

2 行恒古墳
大田市久利町



現状では径一五メートル以上の円墳に見え、墓石らしい石もありません。内部には横穴式石室があり、入口は埋まっていますが、天井石の隙間から玄室の中が見えます。石室の壁は一メートル前後の石を三段以上積んで造られ、全容は埋まっている部分があるためはっきりしませんが、玄室の大きさから石見では最大級の可能性があります。

2 行恒古墳
大田市久利町